


調査団体名	マイクロ・コスモスみえのうみ		団体代表者名	白鳥敏夫	
設立年	2007年12月		団体URL	http://www.geocities.jp/microcosmosmie/	
活動地域	伊勢湾(三重県内) 鈴鹿市の鼓ヶ浦が主な拠点		会員数	13人(松名瀬、白塚の浜等、海岸保全活動団体の方々など)	
取材日	2009/8/21	レポート作成者	近藤朗 (鶴野今日子)	調査員	谷崎、鶴野、近藤
<活動内容>					
<p>「三重県の海を中心とした自然を大切にしましょう」という思いを持った人々が集まり、2007年12月に発足。自然観察指導員三重連絡会の会員が中心となっている。鈴鹿市の鼓ヶ浦(白鳥代表の活動拠点)を主な活動拠点として、月1回の観察会や勉強会を開催している。会費・規則はなし。</p> <p>観察会では、海中生物観察会(採集した海水を顕微鏡で見ることで、プランクトンや海中生物の観察・写真撮影を行う)や、松名瀬干潟探検を開催している。代表の白鳥さんが光学機器会社に勤めていた経験(現在退職)もあり、顕微鏡を活用したプランクトン観察などにより、海の生きもの、自然について身近に感じてもらおうという手法をとっている。マリナー河芸を拠点として観察会、学習活動を実施。とても有効な場である。ただし学校の活動としては、県外からの訪問が多いという。</p>					
<会のモットー(何を大切にしているか)>					
小さなことから始めて、三重県の海を中心とした自然を理解し、大切にしましょうという思いを込めている。					
<設立から現在に至るまでに変化したこと>					
設立から間もなく、変化というより様々な手法を模索中である。マリナー河芸を拠点に、河芸漁協と連携した「海の歓びプロジェクト(実行委員会)」を始めたことや、中部地方整備局が呼び掛けたネットワーク化会議にも参加しながら、有効な手法を見極めていくところである。					
<連携している団体・専門家・自治体など>					
<p>三重県農水商工部水産資源室の「みえのうみ」(プロジェクト)との関わりは深く、イベントの広報PRや資料、機材の提供、採捕に関する許可手続きなど協力してもらっている。「海の歓びプロジェクト」に関して、マリナー河芸の協力もある。また、「マイクロ・コスモスみえのうみ」自体が自然観察指導員三重連絡会会員が中心になっていることもあり、会員団体である「松名瀬干潟ウォッチング(木原寿代代表)」、「白塚の浜を愛する会(西口恵子代表)」、「海老川探検隊・うみくら」、「高松干潟を守ろう会」などの連携の場となっている。</p> <p>(松名瀬干潟、白塚の浜、高松干潟については、第1期調査&lt;2009年3月&gt;に団体活動調査済)</p>					
<今までに行った調査・研究>					
観察会の記録が主体となる(ホームページに一部公開)。砕波帯調査など。					
<現在直面している課題>					
<p>○活動において、なかなか人が集まらないこと。</p> <p>○「みえのうみ」が、2010年度末をもって廃止されることが大きな課題である(今までずいぶん助けられた)。</p>					
<今後やってみたいこと>					
海の自然、本来の恵みについて、とにかく多くの人々、子どもたちに伝えたい。					
<そのためにはどんな情報・人脈が必要か>					
伝えるためのツール、船などが必要と考えている。特に「みえのうみ」が廃止された後の体制について不安を覚える。廃止後も市民が使えるデータやツール(図鑑や砕波帯ネットなど)が残してもらえないだろうか。					

＜チームオリジナルの質問＞	
質問内容:	「みえのうみ」について、市民団体としてどのように評価しているか？ 必要だと評価しているのであれば、それを当局に伝え、存続あるいは成果の継承についてアクションをしているか？ あるいは起こそうと考えているか、教えてほしい。
答え:	「みえのうみ」は、北川県政の成果として十分評価し、私たちは様々な面で助けられている。このプロジェクトに携わっていただいた三重県の担当者は、皆、素晴らしい方々ばかりであった。このプロジェクトが廃止されることについては、逆に行政への不信感も感じている。 ただ、私たちも「みえのうみ」を正しく評価し、それを伝えること、さらに残してほしい、継承してほしいという声や活動は何もしてこなかった。評価などについて、例えば三重大学などと協力してまとめられたらよいと考える。
＜その他、伝えたいこと＞	
それぞれの活動で実際に動いている人間は少ない。人材不足である。白鳥さんは地元の人ではなく、たまたま退職後にこちらに来られ、自然観察指導員講座の縁で(皆の要請で)ミクロ・コスモスの設立、代表になってもらった。今までの仕事柄から、顕微鏡、カメラなどを活用して伝える手法をとっているが、とても好評で、新鮮な人材が新しい展開を生み出す好例であろうと考える。	
	
顕微鏡で撮影したプランクトン	2009年8月12日 「ミクロの世界をのぞいてみよう～伊勢湾の微生物採集・観察」 マリーナ河芸前の海岸にて。生きもの、プランクトン採集